

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000606		
法人名	社会福祉法人ノマド福祉会		
事業所名	グループホームはる		
所在地	〒047-0046 北海道小樽市赤岩2丁目21-12 (電話) 0134-24-6024		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年11月10日	評価確定日	平成21年1月26日

【情報提供票より】(平成20年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27	人
職員数	28 人	常勤	27人,	非常勤 1人, 常勤換算 8.32人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋一部木 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	16,000~21,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名	
要介護1	5 名	要介護2	13 名			
要介護3	4 名	要介護4	4 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85.8 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高村内科医院、なつ胃腸科内科クリニック、 済生会小樽病院、東札幌病院、市村歯科クリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、各ユニットが並列して建ち、中庭をはさんで窓越しに互いの気配が感じられる造りとなっており、広々として落ち着いた雰囲気の中で、利用者はゆったりと過ごしている。当事業所1階には、母体法人の系列事業所もあることから、日常的に交流を図りやすい恵まれた環境にあり、今後も、利用者が地域の中で安心して暮らしていくことが期待できる事業所である。また、職員全員による自己評価を通じたサービスの質の改善にも積極的に取り組んでいるとともに、書類等の電子化により事務の合理化を推進している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題であった「同業者との交流を通じた向上」の項目については、外部研修への職員の参加に努めるなど、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニット毎に自己評価を行い、職員間で話し合っており、ユニットリーダーがまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を、家族、地域住民等の参加により定期的に開催しており、自己評価・外部評価の結果等についても報告し、意見交換を行っており、事業所の運営に反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が面会に訪れたときに意見・苦情を聴くほか、ユニットリーダーが電話で家族等に報告・連絡を行ったり、月1回の広報誌の発行や年1回の懇談会を利用して、報告や意見・要望等の徴収に努め、事業所の運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	盆踊り、法人全体の祭り、近隣保育園との定期的な交流を通して、地域との連携を図っており、サービスの質の向上に活かすよう取り組んでいる。また、施設長が、当事業所1階に併設する生活支援ハウスと兼務しており、相互に交流を図りやすい環境である。今後は、地域住民が事業所を日常的に気軽に来訪できるよう、事業所側からの地域住民への働きかけなどの取り組みにも期待する。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念と共に、事業所独自の理念を掲げており、地域の中で自分らしく生活できる自由と安らぎある家づくりを目指した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット毎に玄関に理念を掲示するとともに、毎日の申し送り、法人内の研修会の機会を利用し、理念の実践に向けて職員間の意思統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊り、法人全体の祭り、近隣保育園との交流を通して、地域とのつきあいを行っている。また、当事業所の1階に生活支援ハウスを併設しており、それもまた交流を深める要因となっている。しかし、地域住民が日常的に事業所を来訪するなどの、気軽なつきあいを行うまでには至っていない。	○	今後は、地域住民が日常的に気軽に事業所を来訪できるよう、事業所側からの地域住民への働きかけなどの取り組みに期待する。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を受け、利用者が個別に休息できるスペースづくりや、利用者と共に調理を行うなどの個別に対応する時間を増やすなど、具体的改善に取り組んでいる。しかし、評価で見出された課題について、改善計画を立てる等の取り組みを行うにまでは至っていない。	○	今後は、自己評価、外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成するなどの取り組みに期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族や地域住民等の参加により、定期的を開催しており、活発な意見交換を行うとともに、そこで得た意見を事業所の運営に活かしている。また、自己評価、外部評価の結果等についても報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市に事故報告を行ったり、わからないことを質問するほか、広報誌の発行を通じて、報告・連絡・相談を行うなど、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族に広報誌を送付し、利用者の生活状況や事業所行事を写真入りで報告しているほか、電話で、ユニットリーダーや看護師が利用者個々に応じた報告を行っている。また、金銭管理に関しては、出納帳を利用料の請求時にあわせて家族に提示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や、年1回の懇談会など、家族が意見・要望等を伝える機会を設けている。また、職員は、家族の来訪時には積極的に声をかけるなど、家族が気軽に意見等を言い出しやすい雰囲気づくりに心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限に抑えるために、職員の正職員比率を上げるなどの努力を行っている。異動等がある場合は、職員と利用者の相性をみながら、利用者へのダメージを防ぐ配慮を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、事業所内で学習会を実施するほか、毎月、母体法人による内部研修会を行っている。また、外部研修に参加する機会も設けており、職員は交替で参加している。研修受講後は、グループホーム会議で研修内容の報告を行い、職員間の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、外部研修やグループホーム協議会の役員会等に参加しており、同業者と情報交換を行うなどの交流を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が自宅を訪問したり、本人・家族から意向や生活歴等の情報を聞き取るなどしている。また、利用開始後も、本人の様子を確認しながら、徐々に馴染めるよう関わり方に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から、着物を購入する際のポイントや木材の仕上げ方法、中国語やロシア語を教えてもらうなど、一人ひとりの得意なことを通して日々の生活の中から多くを学んでおり、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の思いを言葉だけではなく表情やしぐさから読み取るように心がけるとともに、カンファレンス時等には、本人の思いを第一に考えながら検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見や要望を聞き取り、医師とも連携を図りながら、その人らしく生活できるように話し合っ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に1度見直しを行っている。また、利用者の状況に変化があった場合はその都度話し合っており、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の系列事業所のデイサービスを利用したり行事に参加するほか、外出の付き添いなど、利用者や家族の要望にあわせた柔軟な支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にご利用者それぞれのかかりつけ医への受診や往診等の支援を行っている。また、常勤の看護師を中心に、日々の健康管理を行っており、医療面において家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化している利用者が増えている中、できるだけ早い段階から、一人ひとりの状態に合わせてその都度ユニットリーダーを中心に家族等と話し合いをしており、次の施設を探すなどの具体的な対応を検討している。	○	職員の入替わりもあり、方針について職員間で共有を行うまでには至っていない。今後は、グループホーム会議などの機会を利用し、全員で方針を共有することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重するように心がけ、声かけや対応に配慮している。また、個人情報等の書類は、パソコンによるデータ管理を行うなど、取り扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースにあわせ、本人の希望に沿いながら、ゆったりとすごせるよう支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、一人ひとりの状態にあわせ、下ごしらえや配膳、後片付けなどを職員と共に楽しみながら行っている。また、メニューには、利用者の好みを採り入れるなどの工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調を考慮しながら、入浴の回数や時間、タイミングなど、一人ひとりの希望に沿った入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力に合わせ、調理や掃除などの役割や、カラオケや散歩などの楽しみごとなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や、天気の良い日は散歩に行くなど、できる限り利用者の希望に応じた外出支援を行うよう努めている。しかし、職員配置の状況により、すべての希望に応えるまでには至らない。	○	事業所理念である「一人ひとりの思いを大切に、自分らしく生活できる自由と安らぎのある家づくりを目指す」を実践していくため、今後は、利用者の希望に応えるための更なる工夫を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上夜間は施錠しているが、日中は鍵をかけていない。玄関にはセンサーを設置し、利用者の外出を把握できるよう工夫するとともに、玄関前のカウンターから、職員が常時見守りをしている。また、ユニットの玄関にもチャイムを設置しており、出入りを把握する工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練とともに、消火訓練、屋内設備操作訓練を実施している。また、同法人系列の事業所との連絡網を整備し、緊急時の連携体制を構築している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を把握しており、健康状態に応じて、補食や代替食、ミキサー食や刻み食などの工夫をしている。食事・水分量等のデータは、パソコンによる管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節に応じた花や絵を飾り、昼食時は静かでゆったりとした音楽をかけるなど、利用者が寛いで過ごせるよう配慮している。また、ソファや椅子を配置し、それぞれの好みの場所で居心地良く過ごせる工夫をしている。室温や湿度、音や光にも、配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者・家族と相談しながら、本人が使い慣れた馴染みの家具や仏壇などを持ち込んでいる。また、希望に応じて、電話も設置するなど、本人が安心して過ごせるよう工夫している。		

※ は、重点項目。